

前橋文化

比刀祢

66号



練込
み花器

巻頭言

今、これからの芸術文化活動の在り方を考える

前橋市文化協会 会長 清水 和夫

特別寄稿

邦楽と私

群馬トヨペット株式会社 代表取締役社長 大山 駿作

協会活動

◆令和元年度「第7回まえばし和の文化の集い」、コラム「2年目の事務局」

◆前橋地域文化フェスティバル（総合文化祭）

◆第42回前橋市民芸術文化祭

ふれあい体験事業

映像／茶道／華道／バレエ／邦楽／大正琴／日本舞踊／吟剣詩舞道／民謡民舞／八木節
俳句・連句／漢詩／居合道／将棋

部会・支部だより

書道／美術／写真／映像／茶道／華道／音楽／バレエ／邦楽／大正琴／日本舞踊／吟剣詩舞道
民謡民舞／八木節／郷土芸能／歴史／短歌／俳句／川柳／漢詩／演劇／自然趣味／民族舞踊／居合道
将棋／日本の名曲を踊る／大胡支部／宮城支部／粕川支部／富士見支部

☆2019年度役員等名簿

☆2019年度賛助会員名簿

☆令和2年度第43回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

☆令和元年度第54回前橋市民展覧会入賞者一覧

☆第54回前橋市民展 市民展賞作品・お知らせ・新入会員紹介・比刀祢編集委員・事務局だより・編集後記

27 26 25 24 12 7 6 4 3 2 1

表紙説明

練込み花器

これは、練込み技法の作品です。練込みとは成型した物に後から絵付するのではなく、予め発色する顔料を混ぜた土を数種類作り、それらを貼り合わせる事によつて柄を作る技法です。これは、蓮の実をイメージし、下から上にむかつて色が変化していく様子を表現しました。

題字…前橋市長 山本 龍
表紙…練込み花器
表紙説明…大胡陶芸クラブ 霜鳥 憲一

前橋市文化協会は、昭和56年設立以来、昭和・平成の時代を経て、令和3年度には、創立40周年を迎えようとしています。これまで市長部局や教育委員会、市議会、数多くの協賛企業などに多様な支援と援助をいただきながら芸術文化の振興と充実・発展に努めてまいりました。

しかし、今、社会が大きく変わりつつあります。少子高齢化・ITによる情報化、国際化へと加速度的に変化をしています。前橋市文化協会も40年近い歳月を経た今、発足当時の理念を基本に置きながら会員の高齢化などの現実的な課題に対応しつつ、将来を見据えた活動や取組を模索して行かなければならないと考えています。

そこで手始めとして、文化協会事務局自体の見直しと改革に取り組みました。

市民に広く芸術文化に親しんでいただけるような広報活動の推進のために前橋市文化協会独自のホームページの開設と昭和56年の前橋市文化協会の設立とともに創刊された会報「比刀祢」

行ってきた市民芸術文化祭における活動内容の吟味や会員同士の参加の在り方などに対する積極的な検討が必要と考えます。文化協会としては、協会が主催する主な事業である「前橋

した言葉に「不易流行」があります。この言葉の意味は「不変の真理を知らなければ基礎は成り立たず、時代の流れを知らなければ新たな進展はない」という意味であり、現在でも事業の新たな企画や見直しの際に通じるものであります。前橋市文化協会はこの言葉に学びつつ、「座して待つ」のではなく協会員や市当局、幅広い市民の意見を吸収しながら新たな

今、これからの芸術文化活動の在り方を考える



前橋市文化協会 会長 清水 和夫

平成30年4月には前橋市民文化会館の2階に文化協会専用の広くて機能的な事務室を構えました。これに伴い、専任の事務局長をはじめとする3人体制の事務局がスタートしました。また、

の刷新を図りました。しかしながら、こうした取組は、文化協会の事業推進のための組織・運営面の改善だけに止まっているに過ぎません。今後は、各部

市総合文化祭」や「和の文化の集い」、「ふれあい体験事業」を抜本的に見直し、充実・発展に取り組んでいかなければと思っ

なる前橋市文化協会起こしを目指したいと思っ

松尾芭蕉の発句の理念と

昨年3月に、故内田天流氏の次の温故和楽会に就任しました大山鈴高です。

この温故和楽会は、1947年6月1日発足し今年で73年目という歴史ある会で、前橋市を中

心に箏・三弦・尺八の三曲と、長唄及び日本舞踊の同好者によって運営されています。

私は長年(約47年間)、尺八を学び演奏を行ってきました。

その中で古典・新曲・現代曲、又洋楽とのコラボ等も経験させていただきました。新曲・現代曲では、歌物であつてもその意味は明瞭であり、楽器器の場合はメロディーやハーモニー、曲の

流れに集中することが重要

でした。しかし、古典とい

われる曲には、「源氏物語」

を典拠としたもの、和歌を

基に作られたもの等があり

ます。又、地唄や長唄とい

う三味線音楽が時代を経て

は曲の内容や背景を深く理

解し演奏されていましたが、

我々には音楽として重要な

音律や音色、拍子をしつか

り学ぶことを専ら指導して

くださいました。もつとも、

歌詞の内容を理解したとこ

かる程度です。あと何年、

演奏を続けることができる

か判りませんが、曲の内容

把握というインプットが、

演奏というアウトプットに

昇華できる境地には、到底

届きそうにありません。お

している身なので、聴いて、

観て、もつと楽しむために

曲の勉強をしようかと思っ

ています。

長唄や舞踊も、上手・下

手は何となく判りますが、

演者が何を表現したいのか、

その背景はどう

いった物なのか、

思いを巡らせて

鑑賞できたら楽

しみの幅も広が

るような気がし

ます。又、でき

ればそういつた

楽しみを多くの

人に知って頂く

活動も行うこと

邦楽と私



群馬トヨペット株式会社

代表取締役社長

大山 駿作

箏・尺八の手付がなされた

もの、人形浄瑠璃や歌舞伎

といった舞台芸能と結びつ

いて発展したものの等、様々

な曲があります。

私の師でありました故二代目青木鈴慕師は、ご本人

ろで、技量の伴わない演奏

者では表現の仕様もなかつ

たのかもしれない。尺八

譜には変体仮名で記された

歌詞が付与されていますが、

読めない。解説本を読むこ

そらく、今の健康状態を考

えるとあと20〜30年は生存

していることでしょう。そ

こで今後は、軸足を演奏か

ら鑑賞へと徐々に移してゆ

こうかと考えています。折

ができればと考えていま

す。

邦楽全般の人口が減って

いる現状ですが、日本の伝

統文化を後世に継ぐ細い糸

となれば幸いです。

令和元年度 「第7回まえばし和の文化の集い」

平成元年度「第7回まえばし和の文化の集い」は、10月26日（土）に実施しました。

本年度は、事前の周知として、10月3日（木）から18日（金）まで、市役所のロビーでPRパネル展示を行いました。また、21日（月）から25日（金）には華道部会による生け花の展示も行いました。

開会式では、前橋観光コンベンション協会から、映像を使って「臨江閣の活用について」説明していただきました。様々な利用方法があることがわかり、改めて臨江閣の歴史や価値、活用について知ることができ、貴重な機会となりました。

舞台発表では、「大正琴」「日本の名曲を踊る」「民謡民舞」「邦楽」「日本舞踊」「居合道」「八木節」の七つの部会の発表が行われ、見応えや聴き応えのある発表で、たくさんの方々楽しんでいただきました。

茶道部会による茶席は3席ありましたが、朝早くからお客様が並び、大盛況でした。茶道部会の皆さんのお点前の素晴らしさや気配りにより、雰囲気を楽しむことができました。また、華道部会による生け花展示では、14流派による季節感溢れる作品が展示され、格調の高さを披露しました。

本年度は関係者も含め、約1,500人の皆様と一緒に、紅葉の始まった臨江

閣で、文化協会の誇る和の文化を楽しんだり味わったりしていただきました。大盛況の秋の一日となりました。本部役員さんをはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く感謝いたします。



「平成29年度の事務局」

前橋市文化協会事務局が昌賢学園まえばしホールの2階に開設されて、本年4月で2年目となりました。場所も周知され、本部役員さんや会員の皆様を訪れることも多くなりました。有難いことに、書類等を直接持ってきてくださったり、打ち合わせ等で寄つてくださったりしています。皆様と直接お話しができ、事務局も大変楽しく有意義な時間となっています。いつでも事務局に来ていただき、忌憚のないご意見等をお聞かせください。

これからも文化協会の会員の皆様にとつて、親しみやすい事務局運営を推進していくとともに、前橋市の一層の芸術文化振興に努めてまいります。こちらの方面にいらつしゃった時は、どうぞ遠慮なく事務局にお寄りください。



本年度の総合文化祭は、「第43回県民芸術祭参加前橋地域文化フェスティバル」として、令和2年2月1日（土）、2日（日）の2日間、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）において、盛大に開催されました。「地域文化フェスティバル」は、群馬県文化協会連合会や各地域文化フェスティバル実行委員会等の主催により、市町村の枠を超えて開催されている広域的な文化交流事業で、「前橋地域文化フェスティバル」もその一環として行われました。今回は、平成26年度以来、5年ぶりの開催となりましたので、51名の実行委

員の皆様を中心に魅力ある展示と舞台発表の実現を目指して取り組みました。展示部門は、2月1日（土）と2日（日）の2日間、大展示ホールを会場として、美術部門1団体7点、書道部門2団体25点、写真部門6団体37点、文芸部門3団体28点、華道部門1団体6点、前橋市民展受賞部門、書道16点・美術5点・写真5点、計129点の作品を



前橋市民芸術文化祭 ティバル(総合文化祭)

展示しました。

舞台部門は、2月2日（日）、大ホールを会場として、まえばしCITYエフエムパーソナリティー、青柳美保様の司会進行のもと、民踊をはじめ、大正琴、レクダンス、合唱など、28団体、467名の皆様が日ごの研鑽の成果を発表し、会場から大きな拍手をいただきました。

正午より行われた式典で

は、前橋市議会議長、阿部忠幸様、群馬県教育文化事業団理事長、吉野勉様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、前橋市民文化協会名誉会長、山本龍前橋市長（代理）、前橋市教育委員会、山中茂樹指導担当次長）、前橋地域文化フェスティバル実行委員長、清水和夫前橋市文化協会会長、塚越応鐘群馬県文化協会連合会会長が主催者としての



挨拶を行いました。また、アトラクションでは、前橋市児童文化センター合唱団、前橋市立前橋高等学校吹奏楽部の皆さんが爽やかな演奏をご披露くださいました。さらに、小展示ホールにおいては、茶道部会の裏千家、表千家流、小堀遠州流、大日本茶道学会の皆様による呈茶のおもてなしも行われ、一服のお茶を通して日本の伝統文化を味わっていただ

きました。本文化フェスティバルの開催により、県内各市町村文化協会の皆様をはじめ、多くの方々に本市の特色ある文化活動のよさを感じていただくとともに、市民の文化意識の高揚、芸術文化の向上という本文化協会の目標の達成にも近づくことができましたのではないかと考えています。来場者数は、1,600名を超えました。

2019年度 第42回 前橋地域文化フェス

折しも令和3年度は前橋市文化協会創立40周年を迎えることとなります。本文文化フェスティバルの成果を生かし、全会員で手を携え、進んでいく所存です。今回ご協力いただきました各団体や関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。また、展示及び呈茶会場における後片付けでは、学校法人昌賢学園、群馬医療福祉大学の学生さん9名が大

学の試験期間という大事な時期にもかかわらず、ボランティアとして駆け付けてくださいました。若い方が率先して作業に取り組み姿は、実に頼もしく感じました。学生さん方のすばらしい協力にご配慮くださいました地域連携センターの森田隆夫先生をはじめ、大学関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第42回 前橋市民芸術文化祭

2019年度第42回前橋

市民芸術文化祭は、平成31年4月20日から令和2年3月15日までの間、『華道展』『邦楽のつどい』『大茶会』『市民川柳大会』『歴史講演会』『市民短歌大会』『ビデオ作品発表会』『市民俳句大会』『民謡民舞発表会』『八木節のつどい』『日本舞踊のつどい』『自然趣味盆栽展』『陶芸と仏像の彫刻展』『前橋洋舞フェスティバル』『郷土芸能大会』（前橋市教育委員会共催事業）『市民音楽のつどい』『漢詩発表会』『短歌・俳句・川柳合同作品展』『フラフェスティバル』『演劇発表会』『市民展覧会』（前橋市教育委員会共催事業）『前橋地域文化フェスティバル（総合文化祭）』『大胡・宮城・粕川・富士見各地区文化祭』

（各地区実行委員会主催）

の22部会と各支部で実施致しました。『吟剣詩舞道発表会』は、残念ながら台風のため、中止となってしまいました。参加者と来場者数の合計は、約3万1,000人でした。

各部会では、発表会までのプログラムや舞台構成、演出・当日の運営等を人念に準備し、自主的に行っていたいただきました。参加した関係者も、部会によっては、子供たちや高校生・大人まで幅広い年代の参加があったり、全国から参加者が集まったりしており、楽しみにしている方々もいらつしやいました。

この市民芸術文化祭は、それぞれの部会においては、たくさんある活動の一つですが、大きな目標になって

いると感じました。長い時間をかけて、高めてきた文化や伝統をさらに継続してつないでいく様子が感じられる、素晴らしいひと時となりました。

また、今年の前橋市民芸術文化祭は、beyond 2020プログラムに参加しており、看板やプログラムにロゴマークを入れさせていただきますました。

各部会長さんをはじめ、市民芸術文化祭実行委員、会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。来年度の前橋市民芸術文化祭もますます盛り上がり、前橋市の芸術文化の向上・発展が図られることを願っております。



ふれあい体験事業

映像

ビデオ作品づくり教室

前回（平成16～17年）は、小中学生対象に映像創作の芽を育てるふれあい体験を実施。今回14年振りの再開。その間、視聴覚環境は大き



く変化、編集の選択肢が大幅に増えた。今回は成人を対象に、厳選したパソコン編集ソフトを使った体験教室を4月～6月に3回開催した。1回を4時間、延べ12人＋アシスト12人のマンツーマンで実施。特に資料はカラーA4（13枚）の図解入りにし講習の効率化を図る。内容は動画の切り貼り削除を繰り返し、文字、語り、音楽を入れ、オリジナル映像作品に仕上げ、パソコンへ保存後、DVDに書き出し記念に持ち帰り好評だった。

佐藤 利一

茶道

11月23日（土）、24日（日）



の2日間、中央公民館の茶室において、小・中学生対象の茶道教室を担当しました。

小1から中2までと年齢差があり、対応に難しさを感じていましたが、その心配もなく初めからみんな茶室に順応していました。

短い時間の中でも、それぞれの年齢なりに受けとめ理解しながら吸収したことが感想文からも分かりました。

これからも茶道教室で学んだことを心に残し、更に学ぶ機会を求めていって欲しいと願っています。

福田 澄樵

華道

11月2日、前橋元氣21に於いて、いけばな体験教室を古流松藤会、古流大観流の担当で開催。古流松藤会ではパンフレットを配布し

いけばなの歴史、「生花」と「現代華」という二つの形式を持つ流派である事を説明し、今回は花を自由に感じたままを作品にする「現代華」を木苺、ガーベラ、スターチスを用いて体験して頂きました。「きれいな



机の上に飾り毎日観ていた」と言った小学生の言葉が印象的でした。この体験が生活の中に溶け込み、ひと時の安らぎを感じて頂ければ幸いです。

小柳 理美

バレエ

昨年度はバレエ部会全体の6団体で初めてふれあい

体験事業に参加させていた
だきました。6団体が4月
から9月までひと月ごとに
開催いたしました。それ
ぞれに20名以上の申し込み
があり、講師を務めました
各団体の先生方も初めての
経験に試行錯誤と工夫も盛
り込み、又冷汗も含みなが
ら熱心な体験会が繰り広げ
られ、笑顔の溢れる会場と
なりました。これからバレ
エやダンスを始めたいと考
えている方には良い参考に

なられたことと思えますの
で次回につなげて参りま
す。

室賀 孝子

邦 楽

こどもおこと教室

この度ふれあい教室では
私共の会に12名の参加者が
ありました。小2から小6
までの女子が8名と母親の

4名でした。1回2時間の
講習を5日間、7月と8月
の2ヶ月に渡って実施致し
ました。模範演奏では、「さ
くら変奏曲」「アメイジン
ググレイス」「アンパンマ
ンのマーチ」「荒城の月」
などを披露。今年で4回目、
2回目の参加者が合計4人
もいて、レベルの高い曲に
も挑戦できました。

奏法も質の高い指導がで
き、参加者全員が楽しく充
実した講習内容となったよ
うです。

川端 光永

はじめてのおこと教室

下野戸亜弓の会では、
昨年引き続き、2回目の
ふれあい体験事業「はじめて
のおこと教室」を東公民
館の和室を会場に、8月の
土曜日に全4回開催しまし

た。小学生6名、大人3名
の計9人の参加で、そのう
ち昨年も参加してくれた受
講生が5人いましたが、初



めでの受講生も大変熱心で
毎回2時間のお稽古をしつ
かり行うことができました。
小学生は9月15日の「こども
芸能座」に出演し、「春の
小川」「海」「虫の声」「さくら」
の4曲を上手に発表するこ
とができました。

下野戸亜弓

長唄三味線教室

長唄千歳会・長唄ヤサエ
モン座はこの事業に参加し、
三味線体験教室を開催しま

した。4月5月は大人の教
室、6月からは8ヶ月に亘
るこども教室。期間中は三
味線に参加者全員に貸し出
し、家でも三味線にふれら
れる様にしました。その成
果もあつて全員が「荒城の
月」「勧進帳の舞の合方」
を弾ける様になりました。
こども達は9月の「こども
芸能座」にも出演し立派な
舞台を努めました。皆、と
ても楽しく、やりやういと
言っていました。

杵屋彌三右衛門



大正琴

第7回文化協会主催のふれあい体験が前橋市総合福祉会館子育て研修室で令和元年6月16日(日)から9月1日(日)までの7回講習で行われた、大正琴部会

も昨年に続き参加させていただきました。小学生6人、大人数人で始まり今回の練習曲は、美しき天然、花嫁



人形の2曲です。7日間の練習ですが、9月15日の昌賢学園前橋ホールでのことも芸能座の発表会にむけて、一生懸命に大正琴を弾きながら大きな声で歌っていました。最終日に二人ずつ修了証書が手渡されました。皆さんとても嬉しそうでした。

岩井田みき子

日本舞踊

日本舞踊教室は今年で18回目、11人の参加で8月5日より8回行いました。お稽古は童謡「さくら」と長唄「お月さま」です。「お月さま」は昭和のはじめに初代吉駒が作ったものを扇子の踊りにして令和の舞台にかけました。

舞台は9月15日「まえばし子ども芸能座」と10月20日「日本舞踊のつどい」です。発表は緊張しますが励



みになりますし、舞台スタッフの仕事を知ることでもあります。お世話をいただいた皆様に感謝申し上げます。

若柳 吉駒

吟剣詩舞道

詩吟教室

体験詩吟教室も7年目に

なりました。公報からの希望者は8名(小2名)でした。日程は7月〜9月の計5回(いずれも日曜日)で1回の学習時間を2時間としました。今回は学習内容を漢詩3題にしほり重点的に学習、独吟出来るようにしました。そして質問や疑問に答える時間も多くなるようにしました。その結果学習時の雰囲気明るく和やかになった様でした。ま



だまだ「詩吟は難しい」と思っている方が多いようです。「楽しい詩吟」を目指して今後も努力したいと思います。

倉持 聖心

剣舞教室

今年の剣舞大人教室に参加した人達は大変熱心で、出席率も良く10月13日の吟と舞への出場を目標に稽古に励んでいましたが台風19



号の影響で中止になり、ペタンと床に座り込んでしまう程落胆しました。でも気を取り直し来年3月の合同部会に挑戦しようと別の吟題に取り組んでいます。子供教室は申込が一人だったけど剣舞をやりたいとのことなので以前ふれあい教室で剣舞を始めて、その後も続けてお稽古している子供達と一緒に練習しているのが今年の教室で一番嬉しい事でした。

高田 禎彰

民謡民舞

ふれあい体験教室、前橋文化協会主催、日本人の心に響く尺八の音色「塩ビ管で尺八を作って演奏しよう」文化協会より、市広報に募集をしていただき、17名の応募があり7月20日より毎土曜日全7回の講習を行っ



た。第1回は塩ビ管で尺八の制作を始める。第2回目は出来あがった尺八を調律、3回は仕上げた尺八で音を出す練習、4回目は尺八の音符を覚える、5回目はやさしい曲の練習です。6回は楽しく前回の続きです。最終日は独奏・合奏し、成果をこども芸能座に出演した。

鈴木二千六

八木節

私が参加している前橋八木節協会の練習は、楽しい場所です。私をはじめで行った時も年齢関係なくやさしくしてくれました。休憩時間の時は、みんなであめをなめたり、おしゃべりしていたりします。練習では、おはやしと踊り子に分



かれて練習しています。踊り子の道具は、かき、菅笠、せんす、菊づくしを使って踊ります。おはやしは、つつみ、たる、笛、かねを使つて演奏します。私は、八木節が好きです。なので、この群馬で生まれた八木節を続けたいと思います。

飯塚りりあ

俳句・連句

初心者俳句教室

6月15日、7月20日（各土曜日）、第三コミュニティセンターで開催されました。参加者は12名でした。

初日から俳句会の進め方を学び、俳句とはどういうものかを味わって頂きました。参加者の戸惑いも見えましたが、楽しく1日目を終了しました。2日目は外へ出て吟行をしながら俳句の作り方を学びました。前



橋公園から利根河畔まで足を伸ばし、自然を観察しながら俳句の作り方を学びました。午後はセンターで俳句会を楽しみました。

栗原 保幸

初心者連句実作教室

連句実作講座は6月19日・7月17日の2回にわたりに開催されました。今回は二人の申し込みがありそのまま仲間として連句を愉し

んでおります。

連句は古くからの大衆文芸として現代に受け継がれてきましたが、一般的に馴染みが薄く、関心度も低いのが現状ですが、指導者の熱意により会員数も徐々に増えて月1回の座を楽しみにしております。市民俳句大会におきましても「前句付け」という形式で来場者に参加して頂き、楽しいひと時を共有しました。また国民文化祭にも出品し会員の士気



の高揚をはかりました。

新部とし子

漢詩

漢詩部会では、今年初めてふれあい体験に、参加させて頂きました。漢詩は難しいからと、敬遠されてしまい新しい方になかなか入会して頂けません。そこで、文人実業家、渋沢栄一の漢



詩「青淵詩集」の世界と題

し石島 勇先生に講演をして頂きました。60数名の参加者があり、先生のお話に引きこまれ数名が入会して下さいました。公式にあてはめパズルの様に詩語を入れていけば良いので、惚け防止になると思っています。どうぞ皆さんも作ってみませんか。お待ちしております。

片倉 優水

居合道

ふれあい体験教室は6月、9月に群馬武道館にて実施

しました。参加者は16名、皆さん熱心に稽古参加いただきました。参加のきっかけはと問うとやはり「武道刀に興味があった。」と言う人が多く、中学生ながら刀（模擬刀）を所持しているが、使い方や振り方がわ



からないので応募しました。と言う少年もいて、その少年は現在当道場にて稽古に励んでおります。稽古場では「文武両道が出来るといいね。それを目指して下さい。」と指導しているところです。

吉田 努

将棋

本年度のふれあい体験事業は6月10日に前橋中央イ

ベント広場にて行われた

「こども食堂フェスタ」のひとつコマとして実施いたしました。会場にはたくさんのご家族が来場されステージ上に積極的に子供たちも登壇してくれて大盤による「詰め将棋」も奇手・好手が乱れ飛び大変な盛りあがりを見せてくれました。子供たちも将棋にふれて「家でもやってみよう」と主催者冥利に尽きる言葉を残してくれました。

石原 隆行



部会・支部 だより

書道

令和元年度の前橋市民展の書道展は、令和2年3月12日から、昌賢まえばしホールで開催されました。

市民展は、1月30日に作品搬入が行われ、2月5日前橋中央公民館で審査が行われました。

漢字部の一般が74点、かな部131点、新傾向121点でした。この中から運営委員で漢字部の特別賞4点、優作賞1点、奨励賞10点。かな部は、特別賞8点、優作賞3点、奨励賞20点。新傾向は、特別賞6点、優

作賞3点、奨励賞16点を決定いたしました。他に各部門で臨江賞1点、無鑑査の中から無鑑査賞を選出することとし、各部門に別れて審査を開始いたしました。



なお、今回から市民展の審査員の中から、委員賞を選ぶことになり、書道部では3部門の中から、漢字部の片貝幸雄さんの受賞が決まりました。

また、委員推挙では、かな部の関口すみ子さん、宮下孝子さん、新傾向の岡野敦子さんが推挙されました。

無鑑査推挙は、漢字部の松村信枝さん、かな部の阿久澤たか代さん、井上智代子さん、小野芳枝さん、新傾向の熊井弘子さん、宮川由紀子さん、松島学さんが選出されました。

3月7日に予定されていた授賞式と書道部祝賀会は、コロナウイルス感染予防のため中止となりました。

大井美津江

美術

2019年度第42回陶芸と仏像彫刻展は、令和元年11月1日（金）から3日（日）の3日間、昌賢学園



まえばしホールで開催されました。

昨年までは、絵画の2部門が一緒でしたが、文化協会を退会された為、今回は「大胡陶芸倶楽部」と「もくめの会」の2団体となりました。

今回は「もくめの会」を紹介させて頂きます。当会は昭和52年に発足し今年で42年目を迎えた、仏像を主体に彫刻する集団です。現在会員が30名在籍し、この展示会と中央公民館の文化祭を目標に製作に励んでいます。会員も年を取って来て今年になって5名が退会しましたが、新人が5名入

会し頑張っています。

日々の活動は、前橋プラザ元氣21で第2、第3、第4、日曜日の午前9時から12時までの3時間、4階の413アトリエで研修を行っていきます。指導は、先輩が後輩を見ると言うやり方で行っていて、専任の講師は居ません。

最近では、仏像に限らず、アクセサリー、干支等、自分の好みの物を彫刻する人も居ます。

毎年この展示会を楽しみに見に来て下さる方達もおられて、陶芸共々良い作品を見せて頂いたと言うお言葉を頂きました。

来年も立派な作品が展示出来る様に、皆さんで精進したいと思っています。

郷緒 慶三

写真

当団体（全日写連ウイルダネス支部）の活動は、インターネット・SNSの発

達で、様変わりしてしまった。例会等で皆が一同に集まらなくても情報共有ができるようになり、作品の発表も会場を借り展示会を開かなくてもブログやインスタグラム等で沢山の人間に見ていただき、感想も頂けるようになった。

撮影場所や撮影技術についてもネットで調べれば、親切丁寧に解説してくれているページもあり自ら望み検査すれば比較的簡単に欲しい情報を得ることが出来る。

旧態依然とした写真クラブは存在意義を失ってしまっただのかもしれない。どうやって盛り立て存在意義を見出す



すが大きな課題である。

写真文化の発展・撮影マナーの向上を目指しながら被写体と向き合い頑張っていきたい。
梶原 武

映像

主な活動を報告する。1

月例会は新年会を兼ね「私の年賀ビデオ」2分間映像作品を発表。個性溢れる映像作品発表と近況報告を紹介、新年のスタートを切る。

4月～6月は、ふれあい体験教室を14年ぶりに再開。

成人対象に厳選したパソコン編集ソフトを使い、撮影&編集体験教室を実施。6

月～7月は、第42回前橋市民芸術文化祭映像部門「ビデオ作品発表会」の準備や

テスト後発表を群馬会館ホールで行い、前橋ビデオ研究会16本、南橋ビデオク

ラブ4本、芳賀ビデオクラブ3本、計23作品を発表。

四季の自然景観や地域の伝統文化、旅行記、家族の成



長記録、舞台発表など多岐にわたる。傑作は3年間に費やしたインターバル撮影

した茸(ナメコ・しめじ・椎茸)の胞子の幻想的な舞

いと、サボテン、桜、ボケの刺激的な映像が好評を受

けた。秋は撮影会の傍ら、月例会使用会場の前橋市中

央公民館文化祭に2日間参加し、立体カメラの3D撮影体験と鑑賞を実施。また

DVD一体型プロジェクトを

上映して来場者と会員の交流を図った。最後に県庁1階ホールで県民リポーターパネル展に参加後、県庁28階会議室で活動報告を発表、撮影情報や取材手法、着眼点など意見交換を図った。

佐藤 利一

茶道

「二年をふり返って…」

平成31年2月18日(月)

市総合福祉会館にて総会が行われ、和やかな雰囲気の中で皆の総意を結集した今年度の事業計画が決まりました。

令和元年5月19日(日) 第42回市民文化祭大茶会が臨江閣で開催され、

各流派九席の茶席に多くの方々が席入りされ、お茶を

楽しんでおられました。7月2日(火) 八ッ場ダムとその周辺にて、野にある花

などを中心に自然観察学習を行い、事業部で茶道研修が行われました。10月26日

(土) 臨江閣にて「和の文

化の集い」が催され、多くの方々が集い、おもてなし文化を体感し、お茶を楽しんでおられました。11月23日(土) 24日(日) 前橋元氣21茶室にて小中学生を対象にふれあい体験教室が行われ、茶道の所作を通して人を思いやるところが伝えられました。子どもたちは、楽しそうにお茶に親しんでいました。毎月15日(25日、29日もあり)は、「市民の茶席」が前橋元氣21(3階ホワイエまたは茶室)で開催され、多くの市民の方々に参加していただき、お茶を



通して楽しいひとときを過ごしていただきました。11月25日(月)群馬ロイヤルホテルにて2019年の行事反省会と忘年会が行われ、忌憚のない意見が交わされ、貴重な一日となりました。

前田 宗卓

華道

前橋いけばな作家協会は、14流派により構成されています。主な活動は、前橋市民芸術文化祭華道展、和の文化の集いや群馬県華道展などへの参加です。

4月20日(土)〜21日(日)に開催されました前橋市民芸術文化祭華道展は、前橋いけばな作家協会創立70周年記念華道展でした。今回はこどもいけばな教室を実施し、作品を展示しました。春の彩りを添え、1,500名の皆様に足を運んでいただきました。

7月7日は、定期総会を第三コミュニティセンターで



行いました。総会終了後はアコーディオン奏者「椎名ひとみ」先生をお迎えし懐かしい演奏に感銘を受けました。

11月2日(土)前橋プラザ元氣21の会場で、ふれあい体験教室を古流松藤会・古流大観流が担当しました。小学生から大人まで自由に参加出来ることで、少しでもいけばな魅力を感じてくれて良い体験になったのではないかと思います。

また一年を通じ、前橋駅構内に飾り花を会員が交替し心をこめて展示しています。日本の伝統文化が、忘れ去られている昨今ですが、

いけばなを通し伝統文化を守り、継承する重みを感じております。そして和の心が今の社会に少しでもお役に立てることを信じて、努力をして行きたいと思っています。

中山 理江

音楽

11月24日(日)に「市民音楽のつどい」が開催されました。

今年度、新団体が4つ増え、24団体になりました。「コーラス・パレット」は、若くて曲調がリズムカルで、ひきこまれる団体です。「群馬おきりこみ合唱団」は、群馬大学音楽科出身の人が多い団体で、やはり若さあふれる歌声です。

「前橋・市民オペラ合唱団」は、指導する先生が現役のオペラ歌手の先生で、迫力ある歌声の団体です。

「コール・文京」は、「市民音楽のつどい」に出演するのは初めてでしたが、舞

台慣れしている団体です。以上の4団体を含む15団体が出演しました。

今回、会長の山田先生発案で、初めての試みとしてワークショップを開きました。曲は、土の歌より「大地讃頌」で、春に市民音楽祭を開催した時に楽譜の配布をして、それぞれの合唱団で練習をしていただけのようにお願いをしました。

演奏にあたって、山田先生からの曲についての説明と、混声四部合唱のそれぞれのパートについてのご指導があり、この大曲をまと



めあげました。さすが、コーラスをしている方々ばかりなので、会場がハーモニーあふれて一体感を感じました。一般のお客様が、合唱団に入っていただけじゃうれいのです。

横室 幸子

バレエ

昨年恒例のフェスティバルは盛会のうちに幕を閉じました。42回という歴史を刻んでまいりましたが参加団体は創作舞踊からクラシックバレエまで洋舞という分野の方々での組織です。幅広いジャンルのダンスが含まれていることを踏まえて今回より舞踊フェスティバルと変えることとなりましたが文化協会におきましてはそのままバレエ部会として参加させていただきます。舞踊は昨今の健康志向で幅広い年代の方が、また様々なジャンルの広がりもあり、自分に合ったものを幅広く



これからの活動
発表会

| | |
|------------|-------|
| 室賀バレエ | 5月6日 |
| YUKIバレエ | 5月10日 |
| 白鳩バレエ | 6月28日 |
| 金井憲子バレエアーツ | 10月3日 |
| 氏家モダンダンス | 未定 |

邦 楽

室賀 孝子

選べるようになっていきます。昨年度より参加させていただきましたふれあい体験事業にも多くの体験者が参加して下さいましたのでこの機会をいただいで舞踊の素晴らしさや楽しさをより多くの方々に伝えてまいりたいと思います。

昌賢学園まえばしホールの催物にもバレエの公演が目につくようになりました。本物の素晴らしさを目の当たりにして感動し、又幼い子供達や頑張っている年配の愛好者に声援を送る事も楽しんでいただければと思います。

「第42回邦楽のつどい」は、

5月11日(土) 昌賢学園まえばし小ホールで開催された。開会式には、市長さん文化協会長さんの出席を頂き、市長さんから「来年はオリンピック、様々な国々からの来客に、日本伝統文化でのおもてなしを宜しく」と、協会長さんからは、「邦楽は、私達の生活や心の奥底に静かに根付いて、日本人の諸文化を支え続けている」との挨拶を頂いた。

発表は、「長唄合方集」長唄ヤサエモン座、「長唄越後獅子」長唄千歳会、「日本の

叙情歌」つぼみ会、「近江八景」白百合会、「道成寺」錦心流琵琶全国一水会、「日本のわらべ歌」みやび会、「御代の祝」桐の音会、能楽「仕舞」嵐山・東北・小歌・羽衣 前橋宝生会、「菊水」箏曲桜風会、「虫の音」古曲時習会、「秋田菅垣」琴古流尺八若竹会、「千代の寿」知音会と12演目の熱心な演奏であつた。

恒例となつた「まえばし和の文化のつどい」は、臨江閣にて10月26日(土)開催され、「敦盛」錦心流琵琶全国一水会久保川華水、「明



治松竹梅」生田流山田流箏曲合同有志の2演目を披露した。

来年度の「邦楽のつどい」は、5月9日(土)、「まえばし和の文化のつどい」は、10月31日(土)に同会場にて開催予定である。盛会だった今年以上のご来場をお待ちいたしております。

及川 清流

大 正 琴

令和元年10月26日(土)

第7回まえばし和と文化の集いが国指定の重要文化財臨江閣で賑やかに開催され、今年発表種目も多く華やかでした。開会式の後トッポを飾つたのは私達大正琴彌城会のグループでした。演奏曲は誰もが知っている通りやんせ、てるてる坊主、美しき天然、竹田の子守唄、花嫁人形、星かげのワルツです。大正琴の音色は聴く人達に感動を与えたように思いました。美しき天然は難しい



曲ですが小学生の歌声も入り素晴らしいものでした。ふれあい体験で一生懸命学んだ成果がこのステージで実を結び、昔から歌いつがれた曲ばかりなので年配の方には懐かしい曲だつたと思います。客席から沢山の拍手をいただき子供達も喜びと達成感を味わえ、舞台上がって人前で発表する貴重な体験も将来役に立つと思います。他の部会の発表もそれぞれにすばらしく琵琶の弾き語りは現代では珍しく素晴らしいものでし

た。最後の八木節も楽しく元気をもらいました。

今年の彌城会の活動は8月31日(土) 高崎文化会館大ホール琴城流大正琴30周年記念に友情出演、花の首飾り、くちなしの花をソプラノ、アルト、バスと楽団も入り賑やかに演奏、9月15日(日) 昌賢学園まえばしホールで前橋こども芸能座の勉強成果発表会など行いました。岩井田みき子

日本舞踊

第42回「日本舞踊のつどい」の会が令和元年10月20日(日)に昌賢学園まえばしホール小ホールで午後1時開演しました。

山本前橋市長様と清水前橋市文化協会会長様の御祝辞の後幕上がりふれあい体験日本舞踊教室の子供達11名が「さくらさくら」と「お月様」の2曲を踊りました。可愛い仕草に会場の皆様も喜んでおりました。



2番は大和楽「序の舞」を香扇会佐川俊江が踊り、この曲は日本画家上村松園の作品序の舞を題材にしています。3番は長唄「八島官女」を花柳美はる子が壇

の浦合戦で敗れた平家方の官女が海女に身をやつして昔を偲びつつ踊りました。

4番は長唄「水仙丹前」を若柳茂和歌が水仙の花の如く美しい色若衆姿で遊歩する様を描き後半は毛槍を振つて槍踊りとなりました。

5番は常磐津「廓八景」を花柳寿名柚が踊り、この曲は御祝儀曲として有名な曲で品位と重々しさに加えシヤレ気のある振り付けとなつております。

6番は義太夫「萬歳」を



坂東春仙と坂東仙翠の二人立て江戸の正月の風俗に材を取ったもので芸者姿で美しく踊りました。

最後の7番は長唄「多摩川」を部会長の西川扇富珠が貫禄ある舞踊で締めくくりました。終了後は全員舞台上上がり部会長の挨拶と手打ちとなり千秋楽となりました。若柳 茂駒

吟剣詩舞道

今年度の市芸祭吟剣詩舞道大会の開催日は、10月13日(日)でありました。所属8団体はこの日に向けて着々と準備を進めてまいり

ましたが、折しも前日の12日に、東日本、特に関東南部にも大きな被害をもたらした、台風19号が襲来しました。予報を頼りに、前橋市文化協会との連携のもと、11日金曜日午前10時には中止を決め、ご挨拶、ご祝辞で臨席予定であった市長様、市議会議長様への対応、会場の大胡シヤンテへの連絡、傘下各団体の連絡網を通して会員への衆知、駐車場係で依頼してあったシルバー人材センターや弁当業者への連絡等を済ませました。残念ではありますが、次年度へ向け、勢力温存ということになりました。

市芸祭吟剣詩舞道大会は、所属8団体、約300名の会員が日頃の活動と練習成果を発表し、充実した相互交流・研鑽の機会となっております。また、前橋市の「ふれあい事業」参加者を含む、幼少年の発表の場を設け、世代を超えた交流により、



民謡民舞

時代を担う若い力の養成や地域文化振興のために大切な意義を持つ事業となっております。今後、一般市民の参加者を増やすことが課題となりますが、まずは、文化活動に関する興味関心を高める日頃の啓蒙活動を盛んにし、潤いを持った土壌にこそ、広報活動も有効になると思われます。武藤 心篤

前橋民謡連盟の総会を、平成31年4月18日(木)第三コミュニティセンターで

行った。民謡民舞会の事業計画が決定し、令和元年の行事が始まった。前橋芸術文化祭、民謡民舞会第42回の発表会を昌賢学園前橋ホールに於いて、7月7日文化協会主催、民謡民舞会主管で開催することができた。当日、市長、文化協会長より祝辞をいただき、10時より開演することが出来た。オープニングにふさわしく前橋おどりで賑やかに唄って踊っていただいた。

第一部「少年少女の部」10名の少年少女が声高らかに唄い踊り、入場者の心を癒してくれた。第2部は、全会員の発表で、全国の民謡民舞を披露し、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、楽しく演じていただいた。第3部は、各会代表者の演技を披露して頂き、昨年同様到大勢の人に来場いただくことが出来た。

そして文化協会主催のふれあい体験事業では、昨年

に続き「塩ビ管で尺八を作って演奏しよう」を行い17名の応募者があり、全7回の講習会を実施することが出来た。その成果を、9月15日こども芸能座のイベントに参加出来た。そして10月の前橋まつりは、台風のため中止となる。又「和の文化の集い」には、西崎緑初会と鈴雲会と、会員有志の参加で4曲を唄と踊りで参加した。

鈴木二千六

八木節

私達ひよつこの会は、昨年の4月に前橋八木節協会



に仲間入りさせて頂きました。まだ一年たっていないせんが毎回楽しく練習に参加させてもらっています。

八木節を始めようと思っただ、きっかけはJ.Aの農業まつりで八木節を拝見して

「楽しそう!!」

「やってみたい!!」

と思ったのが最初でした。

思い立ったら吉日

踊り終えたばかりの人に声をかけて練習の場所やら時間やらを、しつこく聞いた

のを覚えていきます。疲れているのにもかかわらず優しく丁寧に教えてくれ「待ってるから是非、来て」と言ってくれました。

実際に練習に参加してみると、思いのほか覚える事が多くて踊りの種類も一つではなくて前途多難だと思

いました。

優しく丁寧に指導のおかげで唐笠と、すげ等をマスター出来ました。残るは扇子と男踊りです。早く男踊

りまで踊れるようになって先輩方と同じ舞台に立てる様に頑張りたいと思います。

八木節の練習に参加出来る環境に感謝して、八木節を通じて縁あつて出会えた仲間感謝して、私の残りの人生に八木節が加わった事、これも縁だと思えます。

楽しい仲間と一緒に、長く八木節に携わっていきたいと思います。

石原多香子

令和元年11月23日(土)

に、第47回前橋市郷土芸能大会を昌賢学園まえばし

ホールにて開催しました。

今年の公演は市内の本会加盟団体から三夜沢赤城神社

太々神楽(同保存会)・青柳の祇園(青柳町郷土芸能保存会)・江田の二十二夜様講

(江田町自治会)・清野町野良犬獅子舞(同保存会)の

4団体が出演しました。さらに近隣市町村からの招待

公演として伊勢崎市の東町(あずまちょう)屋台囃子

(東町囃子保存会)、吉岡町の下八幡宮(しもはちまん

ぐう)獅子舞(同保存会)の皆様、更に県立桐生西高

校の皆様にもご出演いただき、あわせて7団体の公演

が繰り広げられました。

招待団体の皆様には、日頃の鍛錬の成果が存分に発揮された勇壮な演舞や演奏

をご披露いただき、客席は大いに沸き立ちました。一方市内から出演の各団体も

それぞれの特色を活かし、優美な舞や華やかな演出で、

大会を盛り上げてくださいました。場所や時間に制限がある中で、公演にはご苦労もあつたことと思います。が、このような経験も糧に、今後の伝統継承に努めていただければと思います。

公演終了後には恒例の抽選会も行われ、大変盛り上がりしました。ご協賛いただいた企業・団体の皆様に感謝申し上げます。今後も地域文化の振興や、郷土芸能の保存・継承を目的として、活動を進めて参ります。

井野 誠一

歴史

第23回歴史講演会を令和元年6月1日(土)に前橋第三コミュニティセンターにおいて、村田敬一(県文化財保護審議会副会長)を講師に迎え「群馬県の装飾建築の流れ」と題して講演して頂きました。多数の出席者が拝聴するなか、次の内容で話された。神殿の成立に



ついて、かつて人々は自然を敬い自然とともに生きて居る事に起源とし、山、森、樹木などを崇拜してきたが、農耕が始まり水稲農業を背景に発展、具体的に農作物の豊かな実りを地域住民と共同で神に祈願する所として神殿が成立した。寺社建設の装飾の手法について、彫刻、金具、漆塗、彩色などあり、彫刻は平安時代までは墓股、須弥壇まわりの格狭間ていど、鎌倉、室町時代になると複雑な模様になり、桃山時代、安土城の頃から建築装飾が急に変化し、武将達がその威勢権力を誇り豪華絢爛化してゆく。群馬の神社建築については、近世建築が多く、文化財保護指定に多くされている、群馬県の文化財指定建造物重要文化財神社六件民家七件寺院二件等、県指定も多く指定されている。以上具体的に話され皆さん真剣に聞き入っていた。その他、春の現地研修会4月28日県立歴史博物館において、山本隆志筑波大学名誉教授による「大新田氏展」について講話を拝聴した。

吉澤 信明

短歌

第54回前橋市民短歌大会を令和元年6月9日(日)に前橋市中央公民館で開催した。参加者は38名(出詠は49名)

山本市長、清水文化協会長のご挨拶をいただいた後、前橋歌人クラブの総会が行われ、井田会長を議長として、事業・会計報告、事業



計画・予算が審議された。

短歌大会は参加者による7首の互選。その集計をし得点の多い順に後記の特別賞を決定。表彰の前に、高得点、講師賞等の合評をした。講師は井田金次郎、内田民之、小林功の各氏。入賞者は以下の通り。

市長賞・澤浦ツヤ子
「茹でた菜に小さき蕾ひしめいて萌え立つ春の命いたたく」

議長賞・中澤ひろみ
「田植え機に乗るから免許返納はしねえと笑う嗚呼父卒寿」

教育長賞・須田はつ枝

「卯の花の咲く頃なりて代掻きの中の鼻取りせし日の浮ぶ」

文化協会長賞・高橋 三枝
「ゆつたりと発知の桜の咲き初めて雪の武尊山を樹下に抱けり」

上毛新聞社賞・神原みさ子
「竿になり鉤になりして飛ぶ雁に北へ帰るを遠く見おくる」

短歌・俳句・川柳合同作品展は、11月30日(土)・12月1日(日)の2日間、昌賢学園前橋ホールの大展示ホールで開催。出品者各自の秀歌が色紙等に書かれ、額や短冊等により展示された。今年の参加は、昨年より8名多く41名であった。

岡田 正子

俳句

第39回前橋市民俳句大会が6月30日(日)に中央公民館ホールにおいて開催されました。恒例の募集句も例年通りの応募数があり、



14人の選考委員の厳正なる審査の結果、市長賞を始めとする各賞が選出されました。又、当日の参加者全員による俳句会も行われ最優秀賞、優秀賞が互選の結果選ばれました。

恒例の前句付けも参加者全員により作品が発表された。第3回まえばし小中学生俳句大会を開催。3,500名の応募がありました。選考委員による点数制に審査方法により最優秀賞、各一人優秀賞各二人、佳作各10名の入賞が決定した。入賞作品集を作製し、入賞者と、各学校に配布。

また、小中学生による俳句実作講座を前橋市児童文化センターに於いて開催し、30名の参加がありそれぞれに作品を創り発表し俳句会を楽しみました。思いもよらぬ作品ができ大喜びであった。

第42回短歌・俳句・川柳合同作品展が11月30日(土)から12月1日(日)まで前橋市民文化会館において開催されました。展示数も昨年並みでした。連句の作品として前橋市民俳句大会の入賞作品と「前句付」、そして、日頃連句会で巻き上げた作品を展示。又、小中学生の入賞作品も展示することができ、来場の方の目を引いておりました。

川柳

永井 勝子

第39回前橋川柳大会が、

5月25日(土) 昌賢学園まえばしホールで開催された。高齢化の心配をよそに、



県内外から昨年を越える88名が参加、大いに交流を深める事が出来た。

上位入賞者と天位句

市長賞 大野 征子

市議会議長賞 織田 和子

教育長賞 上村 脩

文化協会長賞 石原恵美子

川柳会長賞 三村 悦子

「洗う」 傷心を洗ってくれ

る母の海 志村 宇一

「海峡」 海峡がこんなに遠

い拉致家族 小川きくえ

「祈り」 鐘の音へ古都は歴

史の詩をつづる

西瀉賢一郎

「掴む」 晩成の風を掴んだ

回り道 栗原 洋子

「飾る」 人間の終章飾る沙羅双樹 上村 脩

「匂う」 隠すほど忖度の旗揺れ動く 國嶋 武

「大地」 生きる知恵みんなで築く蟻地獄 横田 朝子

「砂」 思いきり砂吐く私の仕舞風呂 内山 克子

短歌・俳句・川柳合同による第42回前橋市民芸術文化祭が11月30日(土)～12月1日(日) 昌賢学園まえばしホールで開催された。

展示を見に来られる方の減少は残念だが、3部門唯一の交流の場として貴重な催しである。是非ともその灯を消さぬ様お願いしたい。

さて、当部会の月例会は296回、手作り月刊誌も475号になった。こちらも灯を消さぬ様頑張っている。

三村 悦子

漢詩

滔々と月日は流れここに令和の新时代を迎えました。これを機に我が漢詩部会

も謙虚に故きを温ね新たな門出の一助にと願いました。先ず、昭和63年5月有志により群馬県漢詩人協会発足初代会長に米倉大謙先生就任、これに刺激され地元前橋でも同年9月には前橋市漢詩研究会が誕生、以来積極的な活動を続け平成5年度には予てよりの念願叶い晴れて前橋市文化協会漢詩部会として堂々名乗りを揚げる事が出来ました。

平成13年当市で開催された国民文化祭では日頃の本領を発揮、よくその責めを果たしました。長い年月紆余曲折は多々ありましたが



心をついに今日に至りました。

当会の年間行事は総会に始まり研修会、発表会、勉強会が主で、この勉強会は月に一度小井土松風先生芳泉先生ご夫妻のご指導を仰ぎ初歩から詩作に到る過程を真摯に又楽しく学びます。

この成果を問うのが、漢詩と書と吟詠と題する発表会で、内容は前号でご紹介済みにより省略、今年も盛会裏に終了いたしました。

次は研修会ですが今回は市文化協会のご協力で石島勇先生より文人実業家渋沢栄一の漢詩「青淵詩集」の世界を受講又多くの資料からひたすら詩を愛し生涯詩を賦し続けた一面を知り唯唯感無量、実り豊かな研修会でした。漢詩は楽しく元気が出ますと一緒に如何ですか。竹内 静香

演劇

「ピグマリオン」が本年度の演目です。イギリスの



劇作家バーナードショーの戯曲で20世紀初頭の作品です。後のミュージカル「マイフェアレディ」の原作で花売娘イライザを当時の社交会にデビューさせようと

もくろむ男達の話です。言語学者のヒギンズは下級社会のイライザの願いを受けて誰もが疑うべくもない完璧な言語を身につけさせることに成功した。このことからヒギンズとその友人ピカリングは学者として大きな成果をあげることができた。イライザもまた何もかもその手に握りしめることができるように思えた。

しかし戯曲はここから急展開をみせる。イライザはヒギンズに敵対心を見せフレディーとの結婚を決意する。イライザの父は多額の金を手にするが昔を夢みて人格が崩壊していくかの様である。ヒギンズは全力を傾けてきたイライザを失い、途方にくれる。ハッピーエンドであるべき展開が暗雲につつまれて幕切れとなる。

おそらく多くの観客があっけにとられ降りてくるドン帳にストレスを感じたのではないかと想われるのである。昼の部450人、夜の部250人の観客の方々には厚く御礼申しあげます。これまでの公演以上に初めてのお客様が多く関係者一同有がたく感じています。来年も文化協会の支援を得てドン帳をあげたい。

日田 一郎

自然趣味

自然趣味部会の盆栽展は



10月25日から27日まで、今年も会員が丹誠し愛培してきた28席の展示により昌賢学園まえばし文化ホールで開催しました。

この盆栽展を永年にわたりに牽引していただきました畷田先生の遺志を受け継ぎ、関係する皆様のご協力を得て今年も無事に開催、皆様にご鑑賞いただくことができました。

今年も10月になっても暑さが残り、例年の盆栽展のような秋を感じさせる柿などの盆栽の展示は少なかつたのですが、「サツキや真柏」など時代を経た展示物が揃

いました。また、数は少なかつたのですが、「西洋カマツカやウメモドキ」などは、鑑賞された皆様には好評を得ています。

昨今、盆栽趣味者の高齢化がいわれており、なかなか新たな愛好家が育たない状況もあります。しかし、当日鑑賞いただきました皆様に、展示された盆栽の特徴や席飾りの方法などを説明すると興味を持っていただけました。今後開催する展示会では、盆栽の歴史などを出来るだけ皆様に説明する機会を設けていきたいと考えています。

今後ともよろしく願います。久保寺健夫

民族舞踊

令和元年12月1日(日)フラフェスティバルが昌賢学園まえばしホール(小ホール)で、行われました。今回で、10回目を迎える事が出来ました。偏に皆様の

ご支援があつての事と感謝致します。今年は年号も令和に変わり、私達のフラフェスティバルも10回目を迎え、記憶に残る思い出の年となりました。

出演者の皆さんもこの10年間の集大成の思いを込めた気持ちで舞台上に臨んだ様でした。前半は、子供達も一緒に、ウリウリを持っての明るく可愛らしいフラで始まり、次々と、色鮮やかなドレスでテンポの早い曲、スローの曲とハワイアン、美しいメロディーで踊る姿は、日常の生活や、年令など忘れて笑顔で楽しそう

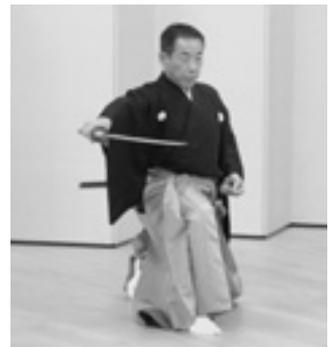


様子が印象的でした。又会場からの暖かいご声援を頂きながら22曲、前半の舞台が終了し10分の休憩の後、後半22曲が始まりました。舞台のヤシの木と、美しい照明の光をバックに踊るフラは暖かく、優しい空気で包んでくれるようでした。全44曲も予定通り、スムーズに進行し時間通り終了する事が出来ました。役員の人も、チームワーク良く協力してくれました。そして会場の皆様からも、最後まで暖かいご声援を頂きありがとうございます。又私達も一来年の発表会に向って頑張つて行きたいと思ひます。皆様のご支援よろしくお願い致します。

吉野 美子

居合道

居合道部会は「ふれあい体験教室」、「まえばし和の文化の集い」、「総合文化祭」の活動を行いました。



「ふれあい体験教室」は6月及び9月に群馬武道館で行われ、皆さん熱心に受講されました。大人の方に混じって中学生受講者もあり、刀の扱いの体験をしたり、技を試したりしました。稽古実技では抜刀法（居合の型の技）に挑戦してもらい、稽古のあと「感想は？」と訊くと「簡単には抜けなものです。しつかり稽古したいです。」と言ってくれた方もいて嬉しい体験教室になりました。

10月26日「まえばし和の文化の集い」が臨江閣で開催され、部会は3回目の参加となりました。青空のもと臨江閣には多くの方に来場いただきその大広間にて

「型である居合」の紹介、そして「仮定の敵に向かう」などの説明を交え演武させていただきました。技は刀法より「前切り」。抜刀法より「四方刀」。抜刀法奥の型より「信夫」などの演目を選びました。

総合文化祭は令和2年2月2日昌賢学園まえばしホール（市民文化会館）にて盛大に開催されました。関係役員の皆様方には大変お世話になりました。御礼申し上げます。活動を通じて研鑽を積んでいきたいと思っております。

吉田 努

将棋

本年度の将棋部会は昨年お伝えしました通り、前橋中央通りの黒田人形店さんの正面にある会場をメインに月1回の活動ではありませんが「こどもの居場所づくり」の一環として活動を進めて参りました。



もちろん大人も大歓迎で回を重ねるごとに次第に参加者も増えている状況です。地域のコミュニティとしての機能を持ち合わせていければとも思っております。参加者も月に一度の開催をたのしみにして頂いていよう。何よりです。そして子供たちも回を重ねるごとに成長をみせてくれます。最初はただ駒を動かすだけ（それだけでも大したものですが）、駒をたくさん取る（集めるように）だった子が次第に相手の王様を歩いてより一手でも早く捕まえること（詰ます）ことを

理解して将棋をさせるようになってきています。

そんな子供の成長を見ながら開催出来ていることに喜びを覚えます。

開催にあたり黒田人形店さんに十分にサポートして頂いております。感謝すると共に「まちなか」の活性化の一助になれば幸いと、今後とも活動をしていく所存です。 石原 隆行

日本の名曲を踊る

前橋市文化協会に加入してほぼ一年になります。その間、総合文化祭に参加して日本舞踊2曲を踊らせていただきました。ただ会員全員が出演できず残念な思いでいましたところ、文化協会事務局長さんより「和の文化の集い」をご紹介いただきました。早速臨江閣へおじゃまして舞台の広さ、舞台への出入口等々確認し参加することになりました。お客様はどのくらいきてく



ださるかなと不安もありました。当日は決して多いほどではなかったのですが、お客様との距離が近くて反応がよくわかりました。気持ち良く楽しく踊らせていただけました。文化協会事務局の方々をはじめ携わっていたいただいた方々に感謝いたします。 若柳菊三枝

大胡支部

令和元年度の大胡地区文化祭は、総合展示・芸能・



音楽の各部門の他茶道会・囲碁大会・将棋大会・大胡の歴史にちよつと親しむ史跡めぐりが10月25日から11月9日まで盛大に開催されました。

展示部門期間の天候の影響により来場者数が若干減少したものの、全体で約3,000人以上の参加を迎えることができました。これも多くの関係者皆様のご支援とご協力があったことと、あらためてお礼申しあげます。大胡地区文化祭の特色は、文化協会会員をはじめ、多くの園児や児童、生徒、公民館利用団体のほか一般参加の方々が、日頃

の成果を発表し、地域と園・校の想いを抱き共創していくところです。まさにそのことを実感いたしました。

また、各部門の設営には参加者や役員各々がしっかりとした目的意識を持ち、それぞれの役割を果たしていただいたことが成功につながった大きな要因だと感じます。特に赤城少年院の院生と先生方には、総合展示会場での重い機の運搬や大量のパネル設置など、会場設営にご尽力いただき心より感謝いたします。

今後とも地域の多くの皆様の参加で活気ある文化祭となり、そこから豊かで楽しく生き甲斐のある地域づくりにつながっていくことを願いたいと思います。

阿部 淑美

宮城支部

令和元年度宮城地区文化



祭が11月2、3日と天候に恵まれ盛大に開催されました。各種団体協力のもと展示部門26団体出品者560名、作品数650点、芸能部門では34団体総勢271名が出場しました。模擬店部門は陶芸部、宮城作業所、若葉高等養護学校の出店や、保健推進委員さんによる体脂肪、握力測定も行われました。3歳迄の子供さんすくすくスマイルの親子による合奏、おゆうぎを初め、4歳の保育園児の日本舞踊、緊張はしていたものの本番にはしつかり踊ることが出

来拍手喝采でした。将来の金の卵たちの活躍には眼を見張るものがあり客席の皆さんに感動を与えた様です。

コーラスあり、八木節あり、歌謡曲あり、フラダンスありと多趣味の多さにおどろきと文化の安泰を感じました。公民館前の駐車場ではバザーが開かれ、陶芸作品、パンジー、クッキーの販売があり大盛況でした。又、中学生のボランティアの皆さんの参加、協力で舞台、いいもん会の流れが手際が良くスムーズに運ぶ事が出来ました。地域が一つになれた事、協力し合う事の大切さを学びました。

霜田きよい

粕川支部

かすかわロコモコは平成20年秋に発足し、今年で11年になりました。『ウクレレサークルが作りたいね』



と身近な人に声掛けをした所賛同して頂き始まりました。殆どの方が楽器経験のない素人の集団でした。練習は毎週木曜日と、昨年12月より第2グループが隔週の月曜日、共に夜粕川公民館で練習をしています。会員は小、中学生、一般と、年齢層は幅が広いです。ウクレレと歌を中心に、カホン、シンセサイザー、ベース、ギター等で構成されており、曲はハワイアンからポップス、アニメソング、ナツメロ等ジャンルを問わず挑戦しています。地

元のフラグループと共に夏祭りや産業文化祭、大胡のグリーンフラワー牧場で春の桜祭り、秋のウインドミルフェスティバルにも毎年参加させて頂いています。介護施設や老人ホーム、老人会や地区のサロン等にも依頼されています。また演奏活動だけでなく、公民館や県や市の事業で子供ウクレレ体験講座の指導にも参加させて頂いています。今まで練習や演奏活動をして思う事は地域のサークル活動は楽しくなければいけないと思います。聞いて喜んで頂く、それには演奏する私達が楽しく演奏できなければいけないと感じます。今後もし仲間達と和気あいあいと活動を続けていけたら……と切に思っております。

大澤 茂

富士見支部

富士見支部の「富士見郷



「赤城神社の現地見学会」(富士見郷土研究会)

土研究会」を紹介しします。

昭和29年に「富士見村誌」刊行を機にそれに携わった人達で昭和34年、村長・教育長等を顧問にして、会員100名超で発足しました。これは富士見文化協会が昭和56年に設立されるはるか以前でした。

会の活動の内容は▼会員が講師になつての講演会、▼村内外の文化財・史跡の見学会、▼会報・研究物の発行。教育委員会と合同で発行した「村の歴史シリーズ集」は富士見の歴史、近

代の開拓から戦争、産業、文化と幅広い内容を掲載、▼文化祭では毎年収集した資料を基に「郷土資料展」として参加、▼文化財保存では小暮旧鳥居の移転保存と多岐に渡る内容を手がけてきました。

今年設立60周年になります。石田和男会長は「会員の高齢化、減少はこの会でも同様です。富士見の各地区ごとの文化財めぐりは大変人気があり、これらの活動を基に会の発展に繋げたい」。そして「これからこの地区の伝統文化を継承して、新しいものも取り入れ、文化協会共々若者が参加できるようにして、元氣な富士見にしていかなければ」と語ってくれました。社会の変化につれ、郷土愛が薄れていく中、「郷土研究会」の活動はそれら呼び醒ましてくれるものです。今後の活躍に期待します。

白石 博己

2019年度役員等名簿

| | | | | |
|------|-------------------------|------------------|---------------|-------|
| 名誉会長 | 山本 龍 (市長) | | | |
| 会長 | 清水 和夫 | | | |
| 副会長 | 阿部 淑美 | 江原満里子 | 及川 清流 | 坂本 實 |
| | 白石 博巳 | 田中寿々々 | 前原 眞一 | |
| 書記 | 井野 誠一 | 荻野 昇 | 霜田きよい | 武藤 心鴛 |
| | 室賀 孝子 | | | |
| 会計 | 西川扇富珠 | 原 与志美 | 増村 友美 | |
| 監事 | 鈴木二千六 | 中村百合子 | 吉澤 信明 | |
| 常任理事 | 大井美津江 (書道) | 郷緒 慶三 (美術) | 藤生 武男 (写真) | |
| | 佐藤 利一 (映像) | 田村 理光 (華道) | 高橋 宗美 (茶道) | |
| | 石原いく代 (音楽) | 齋藤 直美 (バレエ) | 須藤 幸子 (邦楽) | |
| | 岩井田みき子 (大正琴) | 若柳 吉駒 (日本舞踊) | 瀬間 踪心 (吟剣詩舞道) | |
| | 伊藤 養吉 (民謡民舞) | 阿佐美菊男 (八木節) | 谷 晃仁 (郷土芸能) | |
| | 中川 春雄 (歴史) | 平山 勇 (短歌) | 今井 妙 (俳句) | |
| | 三村 悦子 (川柳) | 阿部 心靡 (漢詩) | 小井戸恵子 (演劇) | |
| | 久保寺健夫 (自然趣味) | 吉野 美子 (民族舞踊) | 吉田 努 (居合道) | |
| | 石原 隆行 (将棋) | 若柳吉駒枝 (日本の名曲を踊る) | 伊藤ツヤ子 (大胡支部) | |
| | 北爪 清一 (宮城支部) | 松村喜美子 (粕川支部) | 石関 雅幸 (富士見支部) | |
| | 間庭 淳 (公益財団法人前橋市まちづくり公社) | 原田 陽一 (前橋市) | | |
| 理事 | 下谷 洋子 (書道) | 山口 幹雄 (美術) | 寺澤 昌佑 (写真) | |
| | 馬場 秀夫 (映像) | 宇田理由美 (華道) | 長谷川翔雪 (茶道) | |
| | 佐藤三恵子 (音楽) | 黒崎 滋子 (バレエ) | 福島 常童 (邦楽) | |
| | 安斎紀代子 (大正琴) | 若柳 茂駒 (日本舞踊) | 高山 龍聖 (吟剣詩舞道) | |
| | 石倉 節子 (民謡民舞) | 中嶋 俊明 (八木節) | 富澤 好克 (郷土芸能) | |
| | 石綿 正明 (歴史) | 岡田 正子 (短歌) | 工藤 弘子 (俳句) | |
| | 大島 祐子 (川柳) | 片倉 優水 (漢詩) | 日田 一郎 (演劇) | |
| | 田辺 敏弘 (自然趣味) | 新井扶美子 (民族舞踊) | 山本 明夫 (居合道) | |
| | 齋藤 要治 (将棋) | 若柳菊三枝 (日本の名曲を踊る) | 小野 桂一 (大胡支部) | |
| | 小柴 和子 (宮城支部) | 大澤 敏子 (粕川支部) | 小林 淳美 (富士見支部) | |
| | 福田 修 (公益財団法人前橋市まちづくり公社) | 須藤 義則 (前橋市) | | |

| | | |
|-----|---------------------------|------------------------------|
| 顧問 | 曾我 孝之 (前橋商工会議所会頭) | 中島 實 (副市長) |
| | 佐藤 博之 (前教育長) | 塩崎 政江 (教育長) |
| | 深井 彰彦 (株式会社群馬銀行代表取締役頭取) | 吉永 國光 (株式会社東和銀行代表取締役頭取) |
| | 内山 充 (上毛新聞社代表取締役社長) | 武井 和夫 (群馬テレビ株式会社代表取締役社長) |
| | 塚越 正弘 (株式会社エフエム群馬代表取締役社長) | 田中 義 (公益社団法人前橋市医師会会長) |
| | 石原秀一郎 (一般社団法人前橋市歯科医師会会長) | 大塚 隆夫 (J A前橋市代表理事組合長) |
| | 阿久澤和夫 (前橋ユネスコ協会会長) | |
| 参与 | 中島 克人 (前橋商工会議所専務理事) | 石川 靖 (前橋商工会議所情報メディア部会長) |
| | 川端 利保 (前橋市文化スポーツ観光部長) | |
| 事務局 | 原田 陽一 (前橋市文化国際課長) | 須藤 義則 (前橋市文化国際課文化振興係課長補佐兼係長) |
| | 萩原 忍 (前橋市文化国際課文化振興係副主幹) | 齋木 雄造 (事務局長) |
| | 阿佐美和香子 (事務局員) | 松本 彩子 (事務局員) |

2019年度賛助会員名簿 (50音順)

| 法人・企業等 | 代 表 | 法人・企業等 | 代 表 |
|-----------------|-------|----------------------|-------|
| 赤城フーズ株式会社 | 遠山 昌子 | 株式会社東和銀行 | 吉永 國光 |
| 朝日印刷工業株式会社 | 石川 靖 | 株式会社登利平 | 丸山 勝弘 |
| 一線美術両毛支部 | 高橋留三郎 | なかざと歯科医院 | 中里 隆之 |
| 株式会社オオタヤ | 都丸 和俊 | 中屋商事株式会社 | 曾我 孝之 |
| カネコ種苗株式会社 | 金子 昌彦 | 日本ピアノホールディング株式会社 | 中森 隆利 |
| 関東精機株式会社 | 鮎澤 剛史 | 株式会社ノブプランニング | 町田 栄信 |
| 株式会社群馬銀行 | 深井 彰彦 | バンクリエイティブセンター | 伴場 孝憲 |
| 有限会社群馬通信機サービス | 新井 紘子 | 星野総合商事株式会社 | 星野 義夫 |
| 群馬テレビ株式会社 | 武井 和夫 | 公益社団法人前橋市医師会 | 田中 義 |
| 群馬トヨペット株式会社 | 大山 駿作 | 公益財団法人前橋市観光コンベンション協会 | 曾我 孝之 |
| 群馬農協チキンフーズ株式会社 | 阿佐美菊男 | 一般社団法人前橋市歯科医師会 | 石原秀一郎 |
| ケービックス株式会社 | 井上 哲孝 | 公益財団法人前橋市まちづくり公社 | 静 知明 |
| 株式会社ジーシー | 松下 弘明 | 前橋事務器株式会社 | 秋山 佑馬 |
| 清水 農 園 | 清水 和夫 | 前橋商工会議所 | 曾我 孝之 |
| 下田内科医院 | 下田 隆也 | 松本印刷工業株式会社 | 松本 徹 |
| 学校法人昌賢学園 | 鈴木 利定 | モリタ印刷工業株式会社 | 堤 真志 |
| 株式会社上毛新聞社 | 内山 充 | 株式会社ヤマト | 町田 豊 |
| 上毛電業株式会社 | 狩野 明 | 株式会社ユニバースサイン | 伊藤 佳明 |
| 昭和造園土木株式会社 | 石橋 照夫 | 医療法人吉野医院 | 吉野 昭男 |
| 株式会社ジンスホールディングス | 田中 仁 | 若 宮 内 科 | 山田 邦子 |
| 青 南 社 | 金子 侑司 | | (敬称略) |
| 高木左官店 | 高木 勝夫 | | |

賛助会員・HPバナー広告を募集しています

本協会事務局へお電話、FAX、メールによりお問い合わせください。

〒371-0805 前橋市南町三丁目62-1 昌賢学園まえばしホール (前橋市民文化会館) 内

電話 027-289-6521 FAX 027-289-6531

ホームページ内の「お問合せフォーム」(<https://maebunka-k.jp/>)

E-mail maebunka@maebunka-k.jp



令和2年度 第43回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

| No. | 事業名(部門) | 期 日 | 時 間 | 会 場 |
|----------|---|--|--------------------|---|
| 1 | 華道展 | 4月25日(土)～ 4月26日(日) | 9:50～ | 昌賢学園まえばしホール 大展示ホール |
| 2 | 邦楽のつどい | 5月9日(土) | 12:30～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 3 | 大茶会 | 5月17日(日) | 10:00～ | 臨江閣・日本庭園和室 |
| 4 | 前橋川柳大会 | 5月23日(土) | 13:30～ | 昌賢学園まえばしホール 第5会議室 |
| 5 | 歴史講演会 | 6月6日(土) | 13:30～ | 第三コミュニティセンターホール |
| 6 | 市民短歌大会 | 6月14日(日) | 10:00～ | 中央公民館501・502学習室 |
| 7 | 市民俳句大会 | 6月28日(日) | 13:00～ | 中央公民館ホール |
| 8 | 民謡民舞発表会 | 7月5日(日) | 9:40～ | 昌賢学園まえばしホール 大ホール |
| 9 | ビデオ作品発表会 | 7月19日(日) | 13:30～ | 群馬会館ホール |
| 10 | 八木節のつどい | 9月13日(日) | 10:00～ | 昌賢学園まえばしホール 大ホール |
| 11 | 吟剣詩舞道発表会 | 10月11日(日) | 13:00～ | 大胡シャンテマルエホール |
| 12 | 自然趣味盆栽展 | 10月23日(金)～ 10月25日(日) | 9:00～ | 昌賢学園まえばしホール 大展示ホール |
| 13 | 日本舞踊のつどい | 10月25日(日) | 13:00～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 14 | 短歌・俳句・川柳合同作品展 | 10月31日(土)～ 11月1日(日) | 9:00～ | 昌賢学園まえばしホール 大展示ホール |
| 15 | 陶芸と仏像彫刻展 | 11月6日(金)～ 11月8日(日) | 9:00～ | 昌賢学園まえばしホール 大展示ホール |
| 16 | 前橋洋舞フェスティバル | 11月8日(日) | 13:30～ | 昌賢学園まえばしホール 大ホール |
| 17 | 漢詩発表会 | 11月28日(土) | 13:30～ | 第三コミュニティセンターホール |
| 18 | 郷土芸能大会 ※1 | 11月28日(土) | 12:40～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 19 | 市民音楽のつどい | 11月29日(日) | 13:00～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 20 | フラフェスティバル | 12月6日(日) | 12:30～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 21 | 演劇発表会 | 12月13日(日) | ①12:30～ ②16:30～ | 昌賢学園まえばしホール 小ホール |
| 22 | 市民展覧会 ※2 (美術)(写真)(書道) | 1月～3月 | | |
| 23 ※3 | ・大胡地区文化祭 ・宮城地区文化祭 ・粕川地区産業文化祭 ・富士見地区文化祭 | 10月23日(金)～11月8日(日) 10月31日(土)～11月1日(日) 11月1日(日) 11月12日(木)～23日(月) | | 大胡体育館・大胡シャンテマルエホール他 宮城体育館 粕川公民館・粕川小学校 富士見公民館・ふじみ老人福祉センター |

* 上記日程は令和2年3月31日現在のものです。都合により、日程や開演時間等が変更になる場合があります。
(※1 前橋市教育委員会主催事業 ※2 前橋市教育委員会共催事業 ※3 各地区実行委員会主催事業)

令和元年度 第54回前橋市民展覧会入賞者一覧

(敬称略)

書道部門

第1部 漢字

知事賞 杜審言詩 萩原 真信
市文化協会会長賞 曹全碑節臨 大場 政夫
群馬テレビ賞 無鑑査推挙 松村 信枝
毎日新聞社賞 柳井三代子
優作賞 顧非熊詩 木嶋 弘子
張説詩 王倩詩 酒井 禮輔
奨励賞 汪廣洋詩 櫻井 和子
奨励賞 白居易詩 田村 行雄
奨励賞 白居易詩 関本 菜実
奨励賞 草應物詩 松村 弘子
高適詩 山崎 恭子
奨励賞 吳綺詩 井野 久江
奨励賞 李白詩 神宮明日子
奨励賞 于武陵詩 角田津也子
奨励賞 羊士諤詩 榑澤 光梨
臨江賞 杜甫詩 鈴木 修雄
五字句 李自詩 片貝 幸信
委員賞 張祐詩 高山喜久枝
無鑑査賞 張祐詩

第2部 かな

市長賞 津久井澄恵
晩秋の 市教育長賞 無鑑査推挙 細川 敦子
よしの山 日の入りにて 阿久澤たか代
上毛新聞社賞 ゆきゆけば 橋本 正子
NHK前橋放送局長賞 逢ふことの 蓑輪はるみ
朝日新聞社賞 梅の花 濱田 陽一
東京新聞賞 わが夢も 塩谷 廣美
エフエム群馬賞 あかねさす 和田 悦子
群馬県教育振興会長賞 行きて見ぬ 奈良キク子
優作賞 ときはなる 長沼えり子
優作賞 よそへてぞ 坂本 節子
優作賞 めづらかに 温井 任子
奨励賞 梅がかに 中里 智香
奨励賞 山路こそ 鹿田世志江
奨励賞 春の夜の 星野 正子
奨励賞 柘色紙臨書 大澤 亜弥
奨励賞 無鑑査推挙 しらゆりを 井上智代子
奨励賞 かきくらし 町田 栄子
奨励賞 こころあてに 生方 千里
奨励賞 大ぞらは 田部井宏子
奨励賞 むれてゐる 金子 波江

奨励賞 無鑑査推挙 神無月 小野 芳枝
奨励賞 いざり火は 石崎 克子
奨励賞 はるのたを 矢端 養子
奨励賞 しらくもに 近藤テル子
粘葉本和漢朗詠集臨書 坂本あや子
奨励賞 あすからは 松本 たみ
奨励賞 秋風 高橋 政男
奨励賞 秋来ぬと 中井 久子
奨励賞 からびとの 根岸 孝子
奨励賞 しなてるや 栗原美枝子
奨励賞 今夜こそ 樋口 須加
臨江賞 秋の田の 関 マツ
無鑑査賞 道のべに 神保千代子

第3部 新傾向

市民展賞 走 佐藤 俊輔
市議会議長賞 無鑑査推挙 熊井 弘子
細野美男うた 前橋商工会議所会頭賞 櫻井 恭子
産経新聞社賞 實朝のうた 阿部 篤
読売新聞社賞 無鑑査推挙 宮川由紀子
美男うた 企業メセナ群馬賞 美男のうた 太田 克子
優作賞 蔵 佐藤 太子
優作賞 若山牧水の歌 小林 真依
優作賞 泉 後藤 妙子
奨励賞 穿 湯澤クミ子

奨励賞 外山 文子
奨励賞 中野 俊江
奨励賞 あい子句 林 美子
奨励賞 蔵ワン 倉林 和子
奨励賞 子規のうた 薊 友紀子
奨励賞 睦子うた 小林喜美子
奨励賞 中島みゆきの詞 奈良 美鈴
奨励賞 坂村真民の詩 都丸 千夏
奨励賞 白秋の詩 狩野 彩乃
奨励賞 種田山頭火の俳句 青柳 宏
奨励賞 祝 羽鳥 直美
奨励賞 緑 桜井 瑞穂
奨励賞 理 田部井隆通
奨励賞 無鑑査推挙 松島 学
奨励賞 豊 青木規久繪
臨江賞 誠 鎌塚 文代
無鑑査賞 波 田島 寿恵

美術部門

第1部 平面

知事賞 響 小坂橋良江
市長賞 観客 佐藤 高彦
県教育長賞 南牧村屋尾集落 都丸 丈松
市教育長賞 ANUMII 堀 智子
市文化協会会長賞 パリ花屋のショーウィンドー 網野 宏

前橋商工会議所会頭賞 岡安 彪
静寂II 上毛新聞社賞 Keep Calm And Carry On 島田 淳
NHK前橋放送局長賞 グレイス 金古 伸子
群馬テレビ賞 これから 産経新聞社賞 前田美知代
遊 東京新聞賞 宇津木昭子
夜が明ける 毎日新聞社賞 山崎颯一郎
読売新聞社賞 景 鈴木 安則
大樹 読完新聞社賞 山崎 碧子
エフエム群馬賞 コットン 長井 正美
企業メセナ群馬賞 アーツ前橋 福島志津代
群馬県教育振興会長賞 群馬県教育振興会長賞 栗原 文代
優作賞 三社祭/浅草 永井 適
優作賞 変りゆく彩 大野 昭子
優作賞 ミストラルー北風 鳥山 純子
優作賞 ジェリクルソング 松浦 恵子
優作賞 緑を着る 横室 敏夫
優作賞 皇帝ダリア 南雲 勇
優作賞 婦人像 藤野 春雄
優作賞 耶馬溪 堀口 武子
優作賞 愛しき時間 小柏 美江
優作賞 蛇口 池尾 優璃
優作賞 ぬくもり 小林 百花
優作賞 ホルムアルデヒド 坂部 潤
優作賞 回想 荒木 和代

| | | | | | |
|-----|---------------------|-------|------|-----------------|--------|
| 優作賞 | 市役所の小道 | 佐藤 淑子 | 奨励賞 | 今日も暮れる | 近藤 彩音 |
| 優作賞 | Pure energy of life | 中林 可實 | 奨励賞 | おみくじ | 齋藤 夢々 |
| 優作賞 | 猫とポインセチア | 小林亜由美 | 奨励賞 | 大地の恵み | 長瀬 卓司 |
| 奨励賞 | water lily | 梅山 恵子 | 奨励賞 | 切株の聲 | 河田 利恵 |
| 奨励賞 | 前進 | 久永 宏子 | 奨励賞 | あたたかい花 1996 | 古島 美樹 |
| 奨励賞 | お地蔵さま | 糸井 晃美 | 奨励賞 | 変わりゆく名勝 | 関上 義夫 |
| 奨励賞 | 古い樹 | 津久井秀男 | 奨励賞 | みつめて | 檜谷 安紀 |
| 奨励賞 | 鈴生りの柿 | 鈴木その江 | 奨励賞 | 秋日向 | 阿部 好司 |
| 奨励賞 | 想い出色 | 設楽 松 | 奨励賞 | モープの空 | 藤井さち子 |
| 奨励賞 | 繋がる | 加辺 涼子 | 奨励賞 | 遠い日 | 山本萬里子 |
| 奨励賞 | かえる道 | 戸塚友里菜 | 奨励賞 | トボロジ：ネットワークストーン | 加藤 淳一 |
| 奨励賞 | 雪の泰平閣 | 野口 芳江 | 奨励賞 | 秋彩の一の倉沢岳 | 青木 道雄 |
| 奨励賞 | 見つめる | 浅野 空 | 奨励賞 | 作品 | 篠田 幸利 |
| 奨励賞 | その先へ | 寺田 玲乃 | 奨励賞 | さかな | 長谷川 諒 |
| 奨励賞 | scarlet | 林 優真 | 奨励賞 | 森の喧騒 | 中村 智哉 |
| 奨励賞 | 川辺の桜 | 藤尾 関子 | 臨江賞 | 地獄谷(登別温泉) | 森田さよ子 |
| 奨励賞 | サンタマリアテルライオーレ大聖堂 | 根岸ちい子 | 臨江賞 | 神秘の湖 | 高橋 義雄 |
| 奨励賞 | 珊瑚寺秋景 | 根岸 絹子 | 臨江賞 | 白い香気の花 | 小保方とみ子 |
| 奨励賞 | 静物 | 鈴木 皓久 | 委員賞 | 時の静物 | 清水紀恵子 |
| 奨励賞 | 岩魚の棲む川 | 中村 秋男 | 委員賞 | 予兆 | 手島まさ子 |
| 奨励賞 | 覚満淵 | 田中 晃夫 | 委員賞 | 夜警 | 吉田 成美 |
| 奨励賞 | ざるいっぱい | 奈良 啓子 | 無鑑査賞 | 僥倖 | 横堀 博子 |
| 奨励賞 | その向こう | 金田 亮平 | 無鑑査賞 | 未来を見つめる君へ | 足田由利子 |
| 奨励賞 | 夕暮れの街 | 石坂 彩乃 | | | |

| | | | | | |
|------|---------|-------|--------|------|----------|
| 無鑑査賞 | 陽を集めし冬野 | 篠田 敬子 | 無鑑査賞 | 春へ繋ぐ | 新井 洋子 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 大原 利子 | 第2部 立体 | 市民展賞 | まつり |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |
| 無鑑査賞 | 市民展賞 | 藤井 正彦 | 市民展賞 | 市民展賞 | 市文化協議会長賞 |

写真部門

| | | | | | | |
|----------|----------|-------|-----------|-------|-------|------|
| 産経新聞社賞 | 朝陽 | 藤井 正彦 | 第2部 花・動植物 | 知事賞 | 赤く染まる | 松下 進 |
| 毎日新聞社賞 | 寒瀧 | 峯岸 道男 | 知事賞 | 赤く染まる | 松下 進 | |
| 読売新聞社賞 | 秋色 | 松尾 則子 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 企業メセナ群馬賞 | 林下に咲く | 宝田 好夫 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 光をそえて、朝 | 倉林 義雄 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 射光 | 遠藤 勲 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 風雪の跡 | 男竹 良子 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 祈り | 難波 秀夫 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 夢の夜 | 今井 允 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 碧の追想 | 白石 雅人 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 紅葉輝く | 小川 絃一 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 朝光 | 中里 雅重 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 薫風 | 木暮 修司 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 浅き流れの秋最中 | 篠原 力代 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 早朝の富士山 | 井野 佳幸 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 宇宙から富士へ | 根岸 敏夫 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 星の光跡 | 藤生 武男 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |
| 無鑑査推挙 | 夕日 | 瀬間 昭美 | 市教育長賞 | 無鑑査推挙 | 牛込 善衛 | |

| | | | | | | |
|-----|------------|-------|-------------|-----|-------|-------|
| 奨励賞 | おねだり | 田村 優空 | 第3部 スナップ・人物 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 |
| 奨励賞 | 視線 | 佐藤 弓月 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 森の住人 | 太田美つ子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 巢立ち間近 | 木下 正夫 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 補食 | 並木 睦子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 三人娘 | 反町 雅也 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 上毛新聞社賞 | 郷 薫 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 激流で競う | 中島 祥博 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | エフエム群馬賞 | 宇貫 航平 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 女子散步 | 石綿つね子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 群馬県教育振興会長賞 | 室田 佳子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 着物がお似合い | 市川 聡美 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 爆走 | 木暮 知枝 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 挑戦 | 清水 保宏 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 仲良し | 木部日出雄 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 真剣！お手伝い | 斉藤 麻子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 最高の一日 | 手塚 正一 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 灯籠まつり | 吉田 実 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 新妻 | 吉田美美子 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 優美 | 宮下 健一 | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | 無鑑査賞 | | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |
| 奨励賞 | コーナリング | | 市長賞 | 気合い | 中澤 正雄 | |

第54回前橋市民展 市民展賞作品

市民展賞

書道



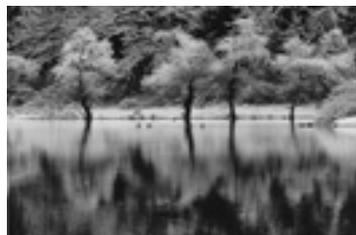
「走」
佐藤俊輔さん

美術



「まつり」
大原利子さん

写真



「静寂」
石田誠一さん

市文化協会会長賞

書道



「曹全碑節臨」
大場政夫さん

美術



「パリ花屋のショーウィンドー」
網野 宏さん

写真



「禅庭花の咲くころ」
薊 金一さん

お知らせ

このたび下記の方々が栄誉を受けました。ここに紹介しお祝い申し上げます。今後、益々のご活躍を祈念いたします。(敬称略)

※群馬県文化奨励賞

若柳 茂駒 (日本舞踊部会)
日田 一郎 (演劇部会)

※前橋市教育文化功労者表彰

郷緒 慶三 (美術部会)
三村 悦子 (川柳部会)
吉野 美子 (民族舞踊部会)

※前橋市社会教育活動功労者表彰

伊藤 養吉 (民踊民舞部会)

新入会員紹介 ～平成31・令和元年度加入～

大正琴部会

大正琴を学ぶ会 代表者 雨笠 徳江 (H31.4～)

邦楽支部 仁智の会

代表者 鈴木 創 (R1.6～)

音楽部会

前橋・市民オペラ合唱団 代表者 今井 和英 (R1.6～)

群馬おきりこみ合唱団 代表者 須藤 久枝 (R1.6～)

コール・文京 代表者 関口 定男 (R1.9～)

書道部会

総社書の友 代表者 原口美智子 (R1.12～)

八木節部会

ひよっこ会 代表者 石原多香子 (R2.3～)

富士見八木節愛好会B 代表者 狩野 透 (R2.3～)

柏川支部

せせらぎ句会 代表者 田部井範子 (R2.3～)

事務局だより

令和2年2月8日に坂本實副会長様のご逝去されました。長年にわたり文化協会の充実・発展に寄与されたことに、心からの感謝を申し上げます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

新しく令和の時代を迎え比刀祢66号は、より見やすく、読みやすい誌面にしてお届け致します。本年度は大山駿作 群馬トヨペット株式会社 代表取締役社長様に、特別寄稿の執筆をして戴きました。これからも、みな様の充実した活動をご報告できるような努力して参りたいと思います。

三村 悦子

比刀祢

(66号)

会報(比刀祢)編集委員
委員長 田中寿々夢
副委員長 今井 妙
委員 三村悦子 工藤弘子

令和2年3月19日 印刷
令和2年3月31日 発行
発行 前橋市文化協会
編集 会報(比刀祢)編集委員会
前橋市南町3-62-1
(昌賢学園まえばしホール内)
電話027-289-6521
印刷 朝日印刷工業株式会社

